

経営支援員と二人三脚



55人の経営支援員は地域の小規模・中小企業の経営改善と持続的発展に向け、支援を行っています。経営者とのコミュニケーションをしっかりと取りながら、課題の解決とさらなる発展に向けた支援活動を展開中。

漆の魅力を伝える はじめての一步

漆の精製機械をメンテナンスしてくれる会社を探していたところ、京商さんがすぐに紹介してくれるなどスピーディーな対応に感謝しています。今後は、漆を使ったサーフボードやBMXを提案するなど、漆のビジネス価値を高め、企業が漆の保全や育成に関われるような取り組みをしたいと考えています。

手づくり冊子で漆への思いを発信

ここ数十年間で漆の需要縮小に伴い、国産漆の生産量はどんどん減っています。家庭や学校ではプラスチック製の食器が多く使われ、暮らしの中で漆器を手にする機会は少なくなりました。

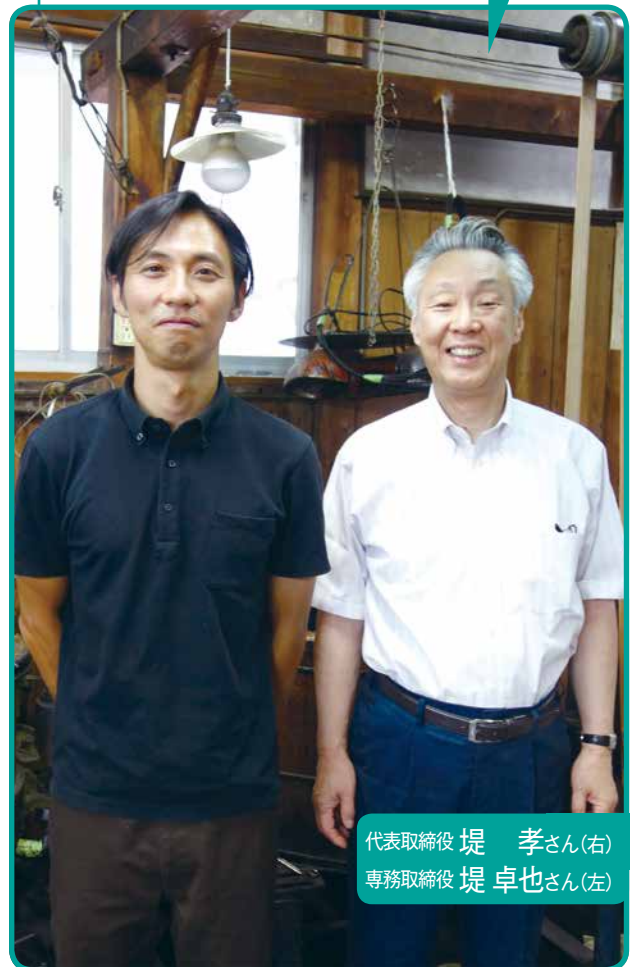
子どもたちに漆をもっと身近に感じてもらいたい！そう考えて今から2年前、京商の支援で補助金の交付を受け、「うるしのいっぽ」という小冊子を作成しました。漆が自然の中でどのように循環しているのか、そして“ほんまもん”を守り伝えていくにはどうすればいいのか…。この冊子を手にとってもらうことで、「家にある漆のお椀を使ってみよう」と思うきっかけづくりになればと考えています。

取材も原稿の作成もすべて手づくりでしたが、幼稚園、小学校、漆器店などに配布し、最初に発行した1,000部はあっという間になくなりました。4月には英訳版を作成するなど、少しずつですが私たちの思いに共感の輪が広がっています。

Xスポーツと漆の新たな掛け合わせ

2020年の東京オリンピックで、サーフィン、自転車競技などが新たな種目に選ばれました。これをきっかけに、新たな補助金を活用して「漆エクストリームスポーツプロジェクト～東京五輪種目×漆」という取り組みを始めました。海外で活躍するアーティストたちとコラボし、私たちの漆を使ってデザインしたサーフボード、BMXなどの魅力を映像で発信しようというもので、今まで漆に関心のなかった若い世代に訴えかけることで、エクストリームスポーツと漆を掛け合わせた新しい文化の創出を狙っています。

漆の世界は、山で木を育て採取する掻き師や、その漆を使って商品に仕上げしていく塗師など、多くの職人の手によって支えられています。私たちだけが成長・発展するのではなく、京都の漆職人さんたちも潤うように、業界全体が活性化するような仕組みを作っていきたいですね。これからも京商のきめ細やかな支援を期待しています。



代表取締役 堤 孝さん(右)
専務取締役 堤 卓也さん(左)

企業概要



創業は明治42年。採取された漆樹液を精製・調合・調色し、お客様一人ひとりのニーズに叶う漆材料をオーダーメイドで提供する。オリジナルの精製技術の開発にも積極的で、漆の粒子をきめ細かく練り上げ完成させた「光琳」は、耐候性や速乾性に優れ、姫路城や日光東照宮など多くの文化財の修復に幅広く使用されている。

株式会社 堤淺吉漆店

代表者/堤 孝

住 所/京都市下京区間之町通松原上ル

T E L / 075-351-6279 U R L / <http://www.kourin-urushi.com/>